

東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展

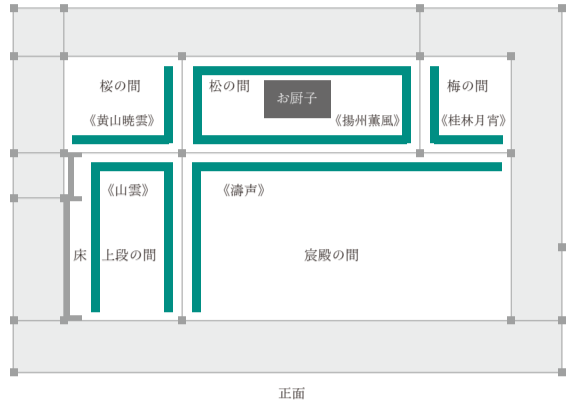
静謐な抒情性を湛えた風景画により、戦後の日本画壇で高く評価され、今なお多くの
人々の共感を得ている日本画家・東山魁夷（1908-1999）。長い画業のなかで、風景との
真摯な対話を積み重ね、日本的な自然観に裏打ちされた唯一無二の心象風景を確立しました。

このたび、東山の記念碑的大作である、律宗の総本山、奈良・唐招提寺御影堂の障壁画全68面を一堂に展示します。1971（昭和46）年から10年もの歳月をかけて制作された本障壁画には、幾多の困難を乗り越えて中国から来日し唐招提寺を開いた鑑真和上への讃仰と崇敬の念を込めて、日本の理想的な自然としての海と山、鑑真和上の祖国である中国の風景が描かれました。

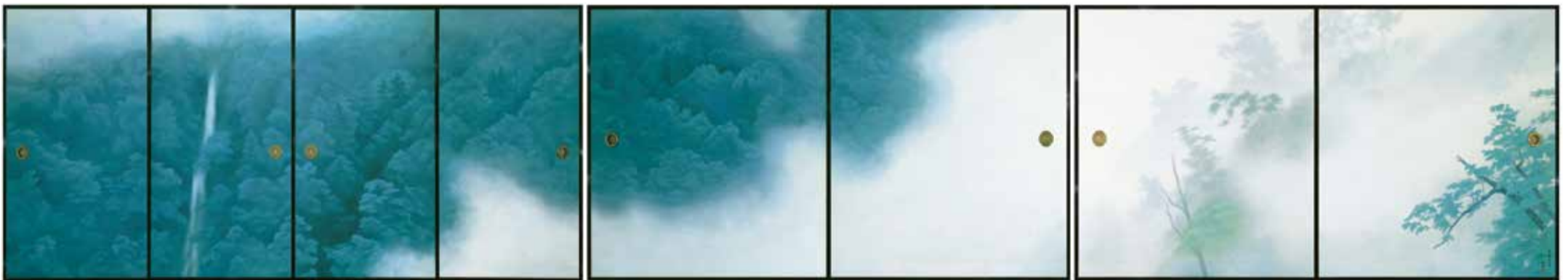
本展では、通常非公開となっている本障壁画を、部分的に御影堂を再現してご紹介するほか、この祈りの風景を構成するために、東山が日本や中国の各地で重ねた取材の軌跡を、当館所蔵のスケッチや下図などから辿ります。



御影堂内「宸殿の間」より「上段の間」を臨む



《唐招提寺御影堂障壁画 涛声》(部分) 1975(昭和50)年 唐招提寺蔵



《唐招提寺御影堂障壁画 山雲》(部分) 1975(昭和50)年 唐招提寺蔵



《唐招提寺御影堂障壁画 揚州薫風》(部分) 1980(昭和55)年 唐招提寺蔵



《揚州薫風》を制作中の東山魁夷

「私の見る風景、私の相対する風景の中に、私の心に繋る大自然の息づかい、鼓動が聞こえる。山の雲は雲自身の意志で湧き昇り流れるのではなく、また、波は波自体の意志で打ち寄せ、響きを立てているのではない。宇宙の根本的なものの動きにより、生命の根源からの導きによるものではないだろうか。

この障壁画も、私が描いたのではなく、描かされたものである。鑑真和上の精神から発したものが、私を導いて、この絵を描かせたと思われてならない(後略)。」

東山魁夷『自伝抄 旅の環』

関連イベント情報

講演会「東山魁夷の水墨画と唐招提寺御影堂障壁画(仮)」

日時 11月28日(日) 14:00~15:30
会場 本館地下1階 ホール
講師 鶴見香織(東京国立近代美術館 主任研究員)
定員 60名(要申込・先着順)
参加費無料(要観覧券)
※手話通訳つき

申込方法

参加申込はすべて10月1日(金)より申込フォームにて受け付けます。当館ホームページ内のイベント情報ページからお申し込みください。定員に達し次第、締切とさせていただきます。
※諸般の事情により、イベント内容の変更や入場を制限する場合があります。

スライドトーク

日時 ① 11月20日(土) 15:00~16:00
② 12月26日(日) 15:00~16:00
会場 本館3階 レセプションルーム
講師 担当学芸員
定員 各回30名(要申込・先着順)
参加費無料(要観覧券)

作品は通期で展示します。